



R6 年度 千駄ヶ谷すくわくプログラム テーマ 「身体」～Me～自分を知る

スマイルシップスポーツに参加をし、【楽・考・伝】という3つのキーワードを軸に、本物の用具を用いて、テニス、ゴルフ、サッカー、ラグビー、バレーボールなど、さまざまなスポーツに取り組んだ。また、セッション最後にはサークルタイムをおこない、自分の感情、気持ち、考えを自分の言葉で表現し、伝える力を育くむことが出来た。

自分の身体を使って
サーキットを楽しんだ
どうやったらうまく身体を動かせるか？考えるようになる。

「スマイルシップスポーツを導入し、身体を使ったさまざまなスポーツに取り組む。その過程で、自分の感情を伝え合う力が自然と身についてきた。

話し合いを重ね、互いの意見を深めながら、より良いルールを考えられるようになった。こうして、公園はただの遊び場ではなく、学び合う場へと変わり、探求心が自然と育まれていった。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 3・4・5歳児 】

実施日：令和6年度4月～

テーマ：サーキット

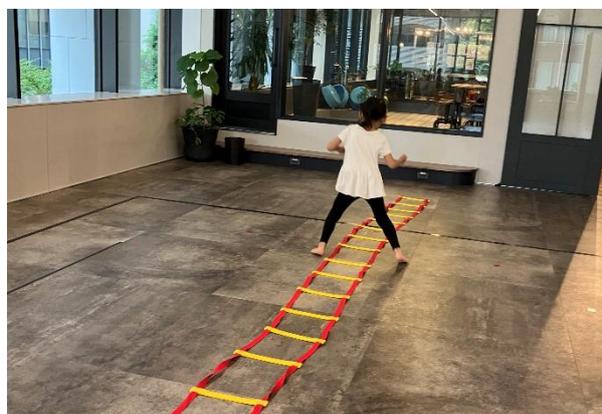
ねらい：・走る、跳ぶ、くぐるなどの動きを通じて、バランス感覚や筋力を養う。
・運動用具の正しい使い方を知る。

活動スケジュール（事前準備など）

- ・トランポリン、鉄棒、ラダー、跳び箱、平均台など、さまざまな用具を用意する。
- ・子ども達が活動中にぶつからないよう、十分なスペースを確保する。

実施記録

- ・さまざまな運動用具を用いて、体幹やバランス感覚、筋力を養うことが出来た。用具の使い方を説明した際は、話を真剣に聞こうとする姿があった。
- ・サーキットをする時は、『順番を待つこと』『決められたコースを進む』などのルールも子ども達に伝えた。そうした経験を積むことで、社会性も育むことが出来た。



振り返り

- ・さまざまな用具を使う際に、正しく使おうとする姿が多く見られた。しかし、鉄棒や跳び箱を使用する時は、「こわい」「できない」と怖がる様子もあったが、そのような時は職員と一緒におこない、少しでも『出来た！』という経験が積み重なるようにした。
- ・鉄棒をおこなった際は、子ども達同士で「腕を伸ばしたら前に回れるよ」「前を見るといいよ」とお互いにアドバイスをする姿も見られた。サーキットのレパトリーも多く取り入れることが出来たため、来年度も積極的に取り入れられるようにしていく。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 3・4・5歳児 】

実施日：令和6年7月～

テーマ：スマイルシップスポーツ

- ねらい：・バレーボール、サッカー、野球など、さまざまなスポーツに楽しく取り組み、筋力や持久力などの「からだ」の力（身体体力）を身に着ける。
- ・サークルタイムおこない、自分の感情、気持ち、考えを自分の言葉で表現し、伝える。

活動スケジュール（事前準備など）

- ・十分な空間を確保出来るようにホールやすぽっとでおこなう。
- ・本物の用具を用意する。

実施記録

- ・ボールやバットなど本物の用具を用いてさまざまなスポーツに楽しく取り組み、「できた！」という小さな成功体験を積み重ねることが出来た。
- ・活動の最後にはサークルタイムをおこない、活動を通して感じたことや、気付いたことを発表することが出来た。その際は「足や手を使うことは難しいけど、楽しい！」「バットで打てたことが嬉しかった」などと、思いおもいの気持ちを伝える姿が見られた。



振り返り

- ・体を動かすことが楽しいようで、時折気持ちが高ぶってしまう姿があったが、その気持ちも受け止めながら正しい行動に促すなど、適切に関わることが出来た。
- ・サークルタイムを定期的におこなうことで、自分の気持ちを相手に伝えたり、話を聞いたりする力が身についてきたと感じる。今後もさまざまな場面で取り

入れていく。

- ・スマイルシップスポーツの中で、講師の方が子ども達の気発言や気持ちを、「そうだったんだね。教えてくれてありがとう。」と、そのまま受け入れる様子や「どんな気持ちだった?」「どれが楽しかった?」と具体的に引き出す声かけをする様子から、子どもの気持ちを引き出す関わり方を職員が学ぶことが出来た。その後の保育の中でも、職員一人ひとりが子ども達のありのままの気持ちを受け止める関わりをおこなうことで、子ども達自身も発言が多くなったり、集中して相手の声を聞こうとする姿が増えた。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 4・5歳児 】

実施日：令和6年3月12日(水)

テーマ：法教育

ねらい：・公共の場所の決まりについて学ぶ。

- ・サークルタイムおこない、自分の感情、気持ち、考えを自分の言葉で表現し伝えると同時に、相手の意見を受け入れる。

活動スケジュール（事前準備など）

- ・公園の決まりについて学ぶため、遊具カードや公園内を模した画用紙を用意する。
- ・集中してサークルタイムに取り組めるように、静かな環境を用意する。

実施記録

- ・行政書士の方を園に招き、『公園の決まり』について学んだ。
ワークを通し、『決まりは何のためにあるのか』を子ども達自身で考えることが出来た。
- ・ワークの中では、日頃の活動やスマイルシップスポーツでも取り入れているサークルタイムをおこない、公園内の決まりについて意見を出し合う時間を設けた。
「公園の中にある木は傷つけたら駄目だと思う」「みんなが楽しく遊べる公園の決まりを作りたい！」などと、一人ひとりが自分の感じた思いや意見を積極的に伝えようとする姿が見られた。



振り返り

- ・サークルタイムやグループでの話し合いの場面では、メンバーの参加度に偏りがあり、積極的に話し合うチームと消極的なチームが生じていた。
会話が途切れがちな場面では、「どんな公園があったら嬉しいかな？」と職員が質問を投げかけたり、個別に問いかけたりなどの支援をおこなった。すると、子ども

達の方から、「花がたくさん生えている公園」「みんなが仲良く遊べる公園」などと、たくさんの意見が出てきた。

- ・活動の開始前は『決まり』について曖昧に感じている子どもが多かった。しかし、絵カードやスライドを活用することで、視覚的に分かりやすくなり、理解を深めることが出来た。



R6 年度 千駄ヶ谷すくわくプログラム テーマ 「食育」

毎月クッキングや足湯、素材・感触遊びでは旬の食材（素材）を意識して活動に取り入れた。

特にしいたけ栽培では栽培するだけでなく、クッキングにも使用したりと連続性を持てるようにした。

感触遊びで、さまざまな素材を触って感触を楽しんだ。その他にも五感全体を使って活動を楽しんだ。食材の変化にも気づいた。

しいたけの栽培に取り組み、その食材を使って干ししいたけを作ったり、味噌汁の具材に入れて楽しんだ。自分で作ったものを食べることで完食できる子もいた。

四季折々の食材や旬を知らせてきた。千駄ヶ谷温泉でも季節にあう素材を使って足湯を楽しんだ。四季の移り変わりや効能にも興味を示した。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 1・2歳児 】

テーマ：感触遊び（素材を知る）

ねらい：・触る素材によっての感触の違いを味わい、楽しむ。

- ・感触を味わうだけでなく、活動の際に器や食具を使用することでごっこ遊びを展開し、友達や保育士とのやりとりを楽しむ。

活動スケジュール（事前準備など）

- ・子どもが万が一、口に入れてしまっても体に問題のない素材を選んだり、活動前に口に入れない、目に入れないなど約束ごとを話してからおこなう。
- ・活動をおこなう前日に子どもと活動の準備をおこない、素材の変化を知らせたり、活動に楽しみを持たせる。（寒天の色付け、春雨やマカロニの水戻しなど）
- ・子ども達が十分に楽しめるよう時間設定をしたり、活動後にスムーズに後始末が出来るようにタオルや着替えなどの準備、職員の配置をおこなう。
- ・器や食具など、子ども達に十分行き渡る数を準備する。

実施記録

- ・事前準備を子どもと一緒にこなうことで、形の変化を感じられたり、「明日〇〇触るんだよ！」と保護者に話したりと翌日の活動に楽しみを持てたようだった。
- ・氷や寒天など色を付けたことで、「ぶどう味だよ！」「これはいちご！」と子ども達の活動がより発展していた。
- ・素材によって、寒天なら握って潰す感触を味わったり、わかめやひじきは匂いを感じたりと五感を使って活動することが出来た。また、家庭ではなかなか出来ない活動だったので、「まだやりたい」「今度はなに？」と活動を楽しむ子が多かった。



振り返り

- ・活動をおこなう前に、可能な物（マカロニ・春雨・わかめ・ひじき）は変化の前後を実際に触って知らせることで、子ども達がより変化に気づくことが出来た。
- ・事前に活動する際の約束事を伝えていても口に入れそうになったり、友達同士での物のやりとりが上手くいかずにトラブルになることもあった。一緒に活動をおこなう保育士がよく子どもの様子に目を配り、誤食を防いだりトラブルの仲介をおこなっていく。
- ・「ふわふわしているね」「つるつるだね」「冷たいね」など感触を言葉にして子どもに伝えることで、子ども達も感触と言葉が繋がったようだった。感触遊び以外でも物の名称や「きれいだね」「キラキラしているね」など、子ども達の表現力を伸ばしていく。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書 クラス【 1・2歳児 】

テーマ：育てたしいたけを使ってのクッキング活動

ねらい：・子ども達がお世話をしたしいたけを使ってクッキングをおこなう。

・毎日水やりや観察をおこなうことで、お世話をする喜びや楽しさを感じたり、成長していく過程を知る。

・自分達で育てたしいたけを食べる嬉しさを味わう。

活動スケジュール（事前準備など）

・飼育環境の把握をし、適切な世話をおこなう。

・子ども達と毎日水やりや観察をおこなうことで、いつ生えてくるかの期待感を持たせたり、生えてきた際の嬉しさが感じられるように声を掛ける。

・しいたけの生育状況により、給食室と連携を取ってクッキング内容やおこなう日を設定する。

・育てたしいたけを食べていいかの確認を家庭に聞く。

実施記録

・収穫したしいたけを干しいたけにして味噌汁の出汁、具として使用した。

収穫した際の形と違うので、実際に子ども達の前で生しいたけを収穫し、それを干したら…と過程を説明してから始めることで子ども達もイメージがついたようだった。

・クッキングをおこない、実際に食べることが出来るとわかると、「もう食べる？」と待ちきれない子が多かった。またクッキングをした味噌汁から食べる子が多かった。普段しいたけが苦手な子も、自分で育てたからか完食することが出来ていた。



振り返り

- ・当初、育てたしいたけは乾燥させて干しいたけにし、水戻しと湯戻しでの違いや匂いを味わう予定だったが、子ども達から「食べちゃだめなの?」「食べてみたいな〜」との声があり、クッキングをして実際に食べてみることになった。
- ・子ども達とお世話や観察をしたり、収穫をすることで、「大きくなったかな?」「赤ちゃんきのこだ!もっと大きくなるかな?」と成長を楽しみにしていた。
- ・収穫したきのこを実際に触って観察したり、子ども達が自由に見れるように室内に掲示するとかさの裏までじっくりと観察する子もいた。観察する際の約束を知らせつつ、誤食につながらないように見守りを徹底した。
- ・収穫してから、クッキングまでの日にちが空かないよう、日程を考えることが難しかった。来年度クッキングすることを前提に飼育を始めるならば、飼育セットを購入する月やクッキング日を検討する。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 1・2・3・4・5歳児 】

テーマ：千駄ヶ谷温泉（ゆず・菊の足湯）

ねらい：・年間通して月ごとの「季節湯」をおこない、日本の風土や伝統を知らせるとともに、四季の移り変わりを肌で感じる。

- ・旬の植物を入れることで、それぞれの匂いや効能の違いがあることを知らせる。
- ・子ども達にも出来る準備を一緒におこなうことで、入る楽しみを持たせたり、みんなで協力して作り上げる大切さを伝えていく。

活動スケジュール（事前準備など）

- ・クラスと足湯をおこなう日程や時間を決める。
- ・使用する材料により、年長児に買い物に行ってもらったり、クラスに皮むきをしてもらったりする。
- ・プールの清掃やインナーガーデンの環境設定をおこなう。
- ・お湯の温度設定に配慮する。

実施記録

- ・茎つきの菊をハサミで幼児に切ってもらい、準備を一緒におこなうことで足湯に入ることをより楽しみにしているようだった。
- ・足湯に入る前に材料に触れる機会も作り、匂いや感触を味わうことが出来た。乳児もタライを使い足湯をしたり、十分に楽しむことが出来た。お迎えの際に保護者に足湯のことを話すことも多く、保護者も実施記録の掲示を見たりと微笑ましく聞いていた。



振り返り

- ・今年度初めての試みだった千駄ヶ谷温泉（足湯）は、「〇月はなに？」と子どももだが職員の楽しみにもなった。
- ・事前に子どもや保護者の目に留まる場所に『今月は〇〇湯 効能…』と掲示することで、旬の植物や四季の移り変わりも知らせることが出来た。また、実施当日に子ども達の様子を写し掲示をすることで、保護者にも活動の報告をした。特に幼児は家庭での話題のひとつにもなり、コミュニケーションのきっかけとなり、親子の対話が深まる様子が見られた。



R6 年度 千駄ヶ谷すくわくプログラム テーマ 「音」

年間を通して、法人独自のぱんぷきんPUMPをおこない、音に合わせて動くことや自由表現を学んだ。日頃の活動で取り組んでいぱんぷきんPUNPなどのリズム遊びを発展させ、冬には合奏やハンドベルでリズムを合わせることや友達と力を合わせて達成感を味わうことを意識しながらおこなった。

日頃から、法人オリジナルのぱんぷきん PUMP に取り組む。表現することを楽しみ、縦割りで教え合う姿もみられた。

クリスマス会に向け、新しい楽器を購入。使い方を知らせ楽器担当を子ども達と話し合う。心を一つにして子ども達だけで合奏を楽しむことができた。

年長ならではの楽器演奏としてハンドベルを取り入れた。気持ちを合わせる。協力する機会につながった。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 1・2・3・4・5歳児 】

実施日：令和6年度4月～

テーマ：生活発表会でのリズム遊びの発表（ぱんぷきん PUMP）

ねらい：・ピアノの音に合わせて動く。

・音の変化に合わせて、自由に表現することが出来る。

活動スケジュール（事前準備など）

年間を通して、海の生き物のイメージに合わせた曲を緩急つけてピアノで弾き、リズム遊びに取り組む。発表会では選択制でぱんぷきん PUMP を選んだ子ども達と一緒に役割を決めておこなった。

実施記録

ホールでの活動で取り組んでいたことで、子ども達にとってはなじみのあるものであった。また、海の生き物がクラス内でもブームであり、発表会で披露する生き物を伝えると図鑑を見て生き物の生態を調べる姿も見られた。ピアノで演奏することで、ゆっくり弾いて動きを確かめたり、早く弾いてて身体を俊敏に動かすことが出来た。特に、初めは早ければいいという考え方で取り組んでいる子もいたが、“ピアノの音に合わせて”という声かけをしていったことで音をよく聞いて参加することが出来るようになってきた。異年齢での活動でおこなうことが多く、動き方を獲得した子ども達が年下児に優しく動きを教えたり手を差し伸べることも増えていった。



振り返り

普段からさくらんぼリズムやぱんぷきん PUMP などのリズム遊びをおこなう機会が多いが、それによって子ども達の発達に繋がったり、リズム感を養うことが出来ていると感じた。また、大舞台で自信を持って取り組むことができ、発表後は達成感や自信にもつながった表情を見せていた。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 4・5歳児 】

実施日：令和6年度10月～12月

テーマ：クリスマス会での合奏発表

ねらい：
・みんなで協力し、合奏を楽しんでおこなう。
・子ども達の手で発表を完成させる。

活動スケジュール（事前準備など）

1か月半前から、楽器の担当決め、楽器ごとの練習をおこなう。リハーサルや日中の活動で、全員で演奏して音を合わせていく。練習を重ねていくことで子ども達のみで発表できることを目指していく。

実施記録

年中と年長で合奏をおこなった。担当したい楽器を決め、それぞれ楽譜を見ながら楽器ごとに練習をしていった。異年齢で楽器を担当していることもあり、年長児が鳴らすタイミングを年下児に教えてあげたり、歌をうたいながら子ども達で練習をおこなう姿も見られた。特に、小太鼓は始まりの合図を鳴らす重要な役割があり、職員と合わせながら取り組んだ。練習を進めていくうちに、最初と最後のお辞儀の音、楽器を持つ合図の音を職員が鳴らす予定であったが、ピアノを担当した子ども達が「できるよ！」と言ってくれたことで、最初から最後まで子ども達のみで完成させることができた。



振り返り

例年通り、合奏のみ子ども達がおこなう予定であった。リハーサルを進めていくうちに、子ども達がピアノで伴奏をしたり、始まりの合図を出したり、と職員がやらなければいけないと考えていたことも、子ども達だけで取り組むことができたことに驚いた。今後も「できない」と決めつけるのではなく、一緒にやってみることを念頭におこなっていきたい。

令和6年度 千駄ヶ谷りとりばんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 5歳児 】

実施日：令和6年度10月～12月

テーマ：ハンドベル

- ねらい：・友達と一緒に演奏することを楽しむ。
・協力して曲を完成させる。

活動スケジュール（事前準備など）

- ・ハンドベルについて、持ち方や鳴らし方を知らせる。
- ・音階を知らせ、楽譜を一緒に読んでみる。
- ・クリスマス会の1か月半前から練習を開始し、本番は舞台の上で発表する。

実施記録

ハンドベルを初めて見た時に、「なにこれ～！」と楽器の形や音に驚いていた。一つずつ音を鳴らしてみると、「ピアノみたい」とピアノを習っている子は同じように音階があることにも気がついていました。

今回は、年長のみでの取り組みであったことで特別に感じたようで、リハーサルでみんなの前で発表することに緊張しながらも、責任感を持っておこなっていた。

練習の中で、一人ふたつの音を担当するので、どうしたら準備するとき自分の鳴らす音がすぐに分かるか、楽譜を見ながら演奏できるかを子ども達と一緒に考えた。

「自分の担当の音が分かるように、左右色を分けてシールを貼る」「楽譜にドレミを振って、自分の鳴らす音に印をつける」など案が出た。進めていくと、楽譜を見ながら鳴らすことが難しく、「もうできない」と諦めそうになる子もいたが、「練習は失敗してもいいんだよ」「練習したら出来るようになるよ」と子ども達同士で声をかけ合う姿が見られた。

当日は友達のをよく聞いて、職員の指示も見ながら、今までで一番素敵な発表をすることができた。



振り返り

職員も子ども達も初めての活動であったが、お互いに試行錯誤しながら取り組むことができた。大勢のお客さんの前で発表することを意識して活動に取り組んでいたが、練習では一音間違えると泣いてしまう子もいたので、緊張しながらも笑顔で発表出来たことは子ども達にとっても良い経験になった。